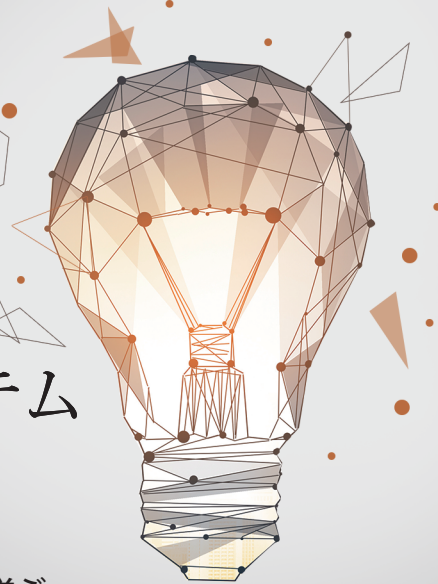


IMSAP スタジオ

2022年冬コース(第4期)

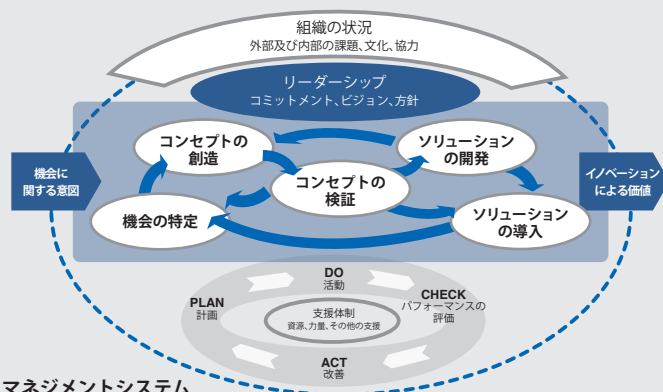
イノベーション・ マネジメントシステム 学習プログラム

ISO56000シリーズと世界の動向に学ぶ



「本業を持つ組織からイノベーションを興しづらい」のは、世界各国の企業の共通の悩みです。既存事業の慣習や経営の常識が、イノベーション活動を阻害するからです。そのような悩みを抱えた国が59カ国集まり、イノベーション・マネジメントシステム(IMS)の国際規格、ISO56000シリーズが2019年に発行されました。規格づくりに日本を代表して最初から参画している一般社団法人 Japan Innovation Network が提供する、日本初のIMS実践者向けの入門プログラムです。

右図は国際規格(ISO56002)で定められたイノベーション・マネジメントシステム(IMS)の骨格です。IMSとは継続的なイノベーションに求められる「経営のOS」です。オペレーション(モノづくりとカイゼン)に最適化された経営OSのまま、デザイン思考などの「イノベーションのためのアプリ」を導入しても、期待した成果は生まれません。「古い経営OSの刷新」が、今、日本企業に求められています。



ISO56002:イノベーション・マネジメントシステム

スタジオの目的と提供価値

世界最先端のイノベーション・マネジメントシステム(IMS)の知を習得し、IMS導入に向けた準備を進める
(勉強のための単なる研修ではありません)

世界最先端の知を得る

ISO56000シリーズに基づき、IMSの要素とあり方を体系的に習得する

チーム構築

各社3-5名で参加し、IMS導入・実践の中核となるチームを構築する

IMS導入準備

担当役員の合意獲得を含む、IMS導入・実践に向けた道筋を立てる

IMSコミュニティ参画

IMS実践をめざす他企業のリーダーや専門家を含むIMSプロフェッショナルのコミュニティの一員となる

参加をおすすめする企業

- イノベーション・マネジメントシステムの実践を検討している
- 様々なイノベーション手法に取り組んでいるものの、成果が出ず苦労している
- イノベーションの必要性は理解しているが、何から着手すべきか苦慮している
- イノベーション推進人材の育成が急務と考えている
- ISO56002規格を読んでみたものの、その意味合いが十分に理解できない

スタジオの基本構成と価格

IMSAPスタジオは、動画学習、対話セッション、自社議論により構成されます。ISO56002規格の詳細を動画コンテンツで学習し、対話セッションで他社の参加者およびJIN 専門家と議論し、理解を深めます。その後、自社チームで自社の状況把握、IMS導入準備に向けた準備を進めます。



動画学習

- IMSの基本的考え方と国際規格 (ISO56002) の全体像および各章の詳細を20分×10本の動画で学習
- ISO56002 制定に参画した西口 (JIN 代表理事) による解説を動画化
- 参加者は都合の良い時間に視聴
- 出された課題を事前検討して、対話セッションに臨む

※規格を事前に購入し、手元にあることを前提に実施



対話セッション

- 2時間×5回のオンライン・セッションに複数企業の参加者が集合
- JIN 解説陣との対話や解説を通じ、規格の深い理解と自社適用のヒントを得る
- IMS 実践を志す参加企業のネットワークや相互学習の機会が実践に向けた取組を加速
- 先進企業へオンライン・ベンチマーキング実施

※オンライン (zoom) での実施を基本とするが、covid-19 の状況次第では対面の場を設定



自社議論

- 対話セッションで学んだことをもとに、自社実践に向けた適用のポイントや現状の課題を議論
- 議論を通じて IMS 立上げに向けた自社チームを構築

※自社議論のテーマはスタジオにより提供されますが、議論の実施は各社に委ねられる

価格: 150 万円 (消費税別)

参加条件

- 自社のIMS 導入・実践に熱意あるリーダーの存在 (役職は問いません)
- IMS 検討・推進に関わる3-5 名による参加 (活動を通じてチームを構築します)
- IMS 導入・推進を支援する役員の存在 (不在の場合、活動期間中に探していただきます)

活動予定 (プログラムは変更されることがあります)



動画学習



対話セッション



自社議論

1. IMS の基本 2. ISO56002 概要解説	第1回 2022年1月13日(木) 15:00-17:00 ・なぜイノベーションにマネジメントシステムが必要なのか ・IMSの全体像 ・国際規格の意味合いを理解する	・復習テストの実施 ・なぜ自社にIMSが必要か議論 ・説得すべき役員と巻き込む仲間の候補をリスト化
3-4. イノベーション活動 (8章) ・活動の計画・機会の特定・コンセプトの創造と検証 ・ソリューションの開発と導入	第2回 2022年1月27日(木) 15:00-17:00 ・イノベーション活動とそのプロセスのあり方を理解する	・復習テストの実施 ・自社のイノベーション活動のあり方を議論 ・役員・仲間へのアプローチ開始
5-6. 支援体制の確立 (7章) ・経営資源の概念と人材・時間と知識のマネジメント ・財務とインフラ・力量のマネジメント ・認知度、コミュニケーションと文書化情報 ・ツール、方法と知財のマネジメント	第3回 2022年2月17日(木) 15:00-17:00 ・支援体制の重要性と経営資源の投入のあり方を考える	・復習テストの実施 ・自社の支援体制の課題を議論 ・IMS導入に向けた道筋を議論
7. 組織の現状 (4章) ・組織状況の理解・利害関係者のニーズと期待 8. リーダーシップの重要性 (5章) ・リーダーシップコミットメント・ビジョンとイノベーション戦略 9. 計画策定 (6章) ・機会とリスクを明らかにする・目的と達成に向けた計画の策定	第4回 2022年3月2日(水) 15:00-17:00 ・自社の現状を把握する ・リーダーシップの重要性を理解する ・計画策定の重要性を理解する	・復習テストの実施 ・組織の現状、リーダーシップ、計画策定に関する課題を議論 ・IMS導入に向けた道筋を議論
個別作戦会議の実施 ・IMS導入およびアセスメント実施に向けた現状と計画について、JIN チームと各社個別の議論を実施		
10. 評価と改善 (9/10章) ・測定/分析/評価および内部監査 ・マネジメントレビューと改善	第5回 2022年3月17日(木) 15:00-17:00 ・評価と改善を通じたマネジメントシステムの習熟の重要性を理解する ・各社のIMS導入に向けた現状を共有し合う	・修了テストの実施 (所定の条件を満たせば、IMS ジュニア・プロフェッショナル認定)

プログラム責任者



紺野 登
JIN Chairperson 理事



西口 尚宏
JIN 代表理事



松本 毅
JIN 常務理事



荻原 直紀
JIN IMSAP スタジオ
ディレクター

お問い合わせ
お申し込み先:



ims@ji-network.org

一般社団法人 Japan Innovation Network

〒100-0011 東京都千代田区内幸町 1-1-1 帝国ホテルタワー 8 階
Tel. 03-5510-7188 https://ji-network.org

